

令和元年度 第3回湖東圏域公共交通活性化協議会総会

開催日 令和2年2月7日（金）10時00分～12時00分

開催場所 彦根勤労福祉会館 4階 大ホール

出席者 別紙参照

1 開会

2 議事

(1) 「第1号議案 令和元年度補正予算（案）」について（資料1）

- ・ 第1号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。

● 野村委員（（社）滋賀県バス協会 専務理事）

- ・ 私は長く委員をしているがため、説明内容は理解しているが、新しい委員で中身がよく分からない方が多いのではないかと。補足説明をお願いしたい。

● 事務局

- ・ 当協議会は各市町の負担金と一部国庫補助を収入として、運営を行っている。
- ・ 今回の補正は、湖東圏域公共交通再編実施計画に基づいて当協議会で実施する事業のうち、路線バスの総合時刻表や愛のりタクシーのパンフレットの発行などの事業に対して、国の補助金の交付決定があったことによるもの。
- ・ 国の補助金は交付が年度末になるので、いったん、構成市町の負担金を収入して事業を行っていくことになる。その後、国の補助金を収入した後に、返戻金として各市町にお返しすることになる。

● 芝委員（滋賀県土木交通部交通戦略課 参事）

- ・ 事業費について、今年度、愛のりタクシーの利用者が増加した分を、補正予算として反映しなくて良いか。

● 事務局

- ・ 今年度は利用者が増加しており、愛のりタクシーの行政負担は大きくなると予想している。
- ・ 愛のりタクシーの行政負担が現時点で確定しているわけではないため、例年は事前に予算を補正せず、年度終わりに会長の専決処分を行い、来年度の第1回総会にて報告している。今回も同様に第1回総会にて報告させて頂く。

● 山田会長（彦根市 副市長）

- ・ 今後は金額だけでなく、事業概要を追記するなど、工夫をお願いしたい。

(2) 「第2号議案 愛のりタクシーの路線延伸等」について（資料3）

- ・ 第2号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。

● 轟委員（滋賀県立大学 准教授）

- ・ 変更までのプロセスや、基準等はどのようになっているのか。

● 上野委員（甲良町老人クラブ連合会 会長）

- ・ 愛のり停留所の新設に対して要件は何か。教えて欲しい。

● 事務局

- ・ 変更の流れは、各市町から案を集めて頂き、担当国会議にて議論する。
- ・ 彦根市の場合を例にとると、自治会から要望を挙げて頂き、市の内部で議論して、変更が適切と判断されたものを協議会にあげることにしている。
- ・ 停留所の位置が頻繁に変わることは利便性の低下につながるため、自治会には、市に要望をあげるときに、地域にとって最も適切な位置を地域のなかでよく話し合っているから、市に要望としてあげていただくようお願いしている。
- ・ 個人の意見のみに基づいて、停留所の変更が協議会の議案になることはない。
- ・ 停留所の設置の基準としては、タクシーが安全に通行や停車ができるかといったこともあるが、停留所の新設は既存停留所が「300m以内」にない場合のみとしており、既存停留所が「300m以内」にある場合は移設も含め、自治会で議論してもらうようお願いしている。

● 山田会長（彦根市 副市長）

- ・ 各町はどうしているのか。

● 事務局

- ・ 各町も市と同様である。

● 上野委員（甲良町老人クラブ連合会 会長）

- ・ 各個人から要望を言われるが、上に要望をあげても変更まで時間がかかる。路線が良くても人がうまく利用しないといけない。

● 事務局

- ・ 愛のりタクシーの路線設定の現在の考え方は、愛のりタクシーは路線バスの代替であり、一定まとまった利用がある箇所に停留所を設置することにしている。
- ・ 医院や調剤薬局などに停留所を設置してほしいという要望があることは承知しているが、停留所数が増えすぎると、路線図・時刻表が分かりにくくなったり、運行がしにくくなったりと、かえって利便性が低下するおそれがあるので、現在は積極的には実施していない。

- ・ 現在の愛のりタクシーの良いところとして、病院やスーパー等には乗り換えなしで行けるといった点があり、こうした利点を生かして活用していただきたいと考えている。

● 轟委員（滋賀県立大学 准教授）

- ・ 路線バスと愛のりタクシー、愛のりタクシーと一般タクシーとの棲み分けを理解してもらわないといけない。そのために、十分な説明が必要である。

(3) 「第3号議案 地域公共交通確保維持改善事業に係る自己評価」について（資料3）

- ・ 第3号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。

● 芝委員（滋賀県土木交通部交通戦略課 参事）

- ・ 1～2枚目の「⑤目標・効果達成状況」について、近年利用者が増加しており、乗合率と利用者という指標があるが、評価AとBの違いは何か。また、今後の取組方策等についてはPDCAサイクルで管理していると思うが、その状況を教えて欲しい。

● 事務局

- ・ 目標を乗合率 1.8 人/便に設定しているため、目標を達成した路線をA、乗合率が上昇したが目標は達成していない路線をB、乗合率が下降した路線をCと評価している。
- ・ 本来は、路線ごとの分析を行い、その結果から改善点や目標達成に向けた取組みを検討すべきとは考えるが、今のところの取り組み予定としては、4月1日から導入したふく割の周知を図ることを考えている。

● 村田委員（滋賀県湖東土木事務所 次長）

- ・ ふく割の周知について、新たな利用者は免許証自主返納者だと思うが、警察署で周知は行われているのか。

● 事務局

- ・ 免許証自主返納者に対して、警察署窓口にて湖東圏域で回数券を配布していると案内してもらっている。その後、各市町の窓口に来てもらい、パンフレットの配布や利用方法を説明している。

● 轟委員（滋賀県立大学 准教授）

- ・ 事業評価は国への説明として理解できるが、愛のりタクシーの路線別のコストや行政負担額は出せないのか。
- ・ 愛のりタクシーは乗合率だけでなく、経費や行政負担等の収支と、利用者の利便性等とのバランスを考えて、バス路線の存廃の基準のような、指標を設定してほしい。

● 事務局

- ・ 路線バスの利用実績は例年第1回総会で状況を報告させて頂く。

● 深田委員（滋賀県タクシー労働組合連絡協議会 議長）

- ・ 他も業界と同じくタクシー運転手も高齢化が進み、積極的に募集しているが人手不足である。将来、乗り手がいなくなる可能性があるため、市町にも支援をお願いしたいという要望をしたい。
- ・ ライドシェアを他の市町で行っているが、緑ナンバーで行うようお願いしたい。

(4) 「第4号議案 市道大藪金田線供用開始に伴う路線バスの路線変更」について（資料6）

- ・ 第4号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、異議無く承認された。

(5) 「報告事項1 愛のりタクシー利用者アンケートの結果」について（資料4）

- ・ 報告事項1について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされた。

(6) 「報告事項2 運転免許証自主返納支援制度申請者へのアンケートの結果」について（資料5）

- ・ 報告事項2について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。

● 轟委員（滋賀県立大学 准教授）

- ・ 今回の結果をどのようにフィードバックするのか。

● 事務局

- ・ 今回は結果報告のみで分析ができていないため、今後精査していく。
- ・ 今年度は自治会に出向いて愛のりタクシーの説明会に回っており、愛のりタクシーの利用についてハードルを下げる努力をしている。また、愛のりタクシー以外の何か交通手段があるのかもしれないということは、公共交通以外の分野を跨いで検討する必要があると考えている。

● 轟委員（滋賀県立大学 准教授）

- ・ 様々な要望があるが、できることと、できないことを分けた上で回答をフィードバックすべきである。その前段として、そもそもの制度設計の趣旨を、説明する必要がある。
- ・ 愛のり利用者のアンケートは回答者が46人と少ないとは言え、満足度は高い。一方、免許証返納者のアンケート結果の方は、まだ公共交通に抵抗感があるようだ。

● 野本委員（聖泉大学 名誉教授）

- ・ 免許返納者は75歳以上がほとんどであり、公共交通が充実しないと死活問題である。
- ・ 路線バス、愛のりタクシー、一般タクシーを上手く利用して欲しい。
- ・ ジェロントタクシー（目的地が設定してある定額乗り放題のタクシー定期券サービス）や緑ナンバー以外のNPO等を研究し、検討して欲しい。

- ・ 近年、独り暮らしも多くなっているが、もう少し先を見る必要がある。
- 野村委員（（社）滋賀県バス協会 専務理事）
 - ・ 今後、行政として自由記述を精査してフィードバックすべきであり、住民と行政のお互いが理解すべきである。また、今後も丁寧に説明して行って欲しい。
 - 石井委員（滋賀大学教授）
 - ・ 愛のりの利用手引きも配布しているのか。
 - 事務局
 - ・ 市町の窓口に来られた方には愛のりタクシーのパンフレットを配布し、口頭で利用方法等を説明している。
 - 石井委員（滋賀大学教授）
 - ・ 制度に対して正しく説明することも大事だが、75歳以上の方に字を大きくし、FAQも記載したパンフレットを用意すべきである。また、回数券を使っていない人が多いため、利用期間を設けるのも一つの考え方である。
 - 上野委員（甲良町老人クラブ連合会 会長）
 - ・ 今後、使うかもしれないと思って残しているのかもしれないため、毎年回数券を渡されると利用するかもしれない。
 - ・ 一方で外出により認知症の遅れに繋がることもあるので、回数券の利用方法など、もう少し丁寧に説明して頂けると有難い。
 - 山田会長（彦根市 副市長）
 - ・ 役所はアンケートを実施だけで終わることが多いため、前向きに検討してフィードバックして欲しい。
 - 太田委員（滋賀県東近江警察署 交通課長）
 - ・ 免許証自主返納者は後の交通手段を考える余裕はなく、認知機能の検査結果が悪いと自主返納ではなく取り消し処分となる。そのため、返納するか否かの判断材料として返納する前に情報提供や周知が必要ではないか。
 - ・ 何処に行けて何処に行けないのかを、病院にも動画媒体等があるので紹介するなどイメージを持ちやすくしてはどうか。
 - 事務局
 - ・ 現在は路線バスと愛のりタクシーのパンフレットを年に1回全世帯に配布しているが、周知が十分でないため、印刷物の工夫やそれ以外のメディアを検討していきたい。

● 上野委員（甲良町老人クラブ連合会 会長）

- ・ 年より向けの媒体を検討して欲しい。

(7) その他

- ・ 次回総会は3月27日（金）に開催を予定しており、会場・開始時間は後日連絡する旨の報告があった。

3 閉会

以上